



新神田小学校

所在地：金沢市新神田1-10-58

電話：076-291-3821

FAX：076-291-3822

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/shinkanda-e/>

校長名：近岡 真理子

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	58	59	68	67	64	67	4	387
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他						
職員数	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	1	1	1	2	24

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

授業においては、「分かる・できる」学習の手立てを重点化したことで、教師自身が一時間一時間の課題と手立てをもって、授業にのぞむことができた。また、授業の後には、手立ては効果的であったかなどを中心に分析し、授業改善にもつなげることができた。また、一時間の授業のまとめの段階で書くことを取り入れてきたことは、児童の書く力にもつながり、基礎的な力は確実に身につけてきている。しかし、課題解決型の授業づくりを大切にしながらも考える力、表現する力をつけなければならないという課題が残った。

2 学力等の現状分析

(1) 各教科の現状

ア 国語科

言語についての知識・理解・技能は、概ね定着してきていると言える。しかし、話し合いの話題や大切なことを明確にして話したり聞いたりする力、段落相互の関係を読み要約する力、情報を読み取り自分の考えや思いを相手や目的に応じて適切に、明確に書く力で課題が見られた。

イ 社会科

地図帳を用いての石川や日本の様子や位置、地形についての知識は定着してきたと言える。また、日本の自動車工業について資料から必要なことを読み取る力もついてきている。しかし、自分の考えを書く力、実生活と結びつけて考える力が不十分であった。

ウ 算数科

整数や小数・分数の計算や棒グラフの読み取り、円の半径を使った二等辺三角形のかき方など、基礎的な力はついてきている。しかし、知識を実生活と結びつけて考える力、除法の題意に即した余りの適切な処理を考える力は不十分であった。

エ 理科

生物や生命についての知識は定着している。しかし、回路のつなぎ方を図示したり実験方法や雲や天気の間接関係を選んだりする既習内容の定着、水蒸気の結露の理由や影の向きの変化の理由を説明する力は十分ではないと言える。

(2) 全体的な傾向

県の基礎学力調査の結果の分析から、本校児童は基礎的な知識・理解・技能については概ね定着してきていると言える。また、資料を読み取る力も少しずつついてきている。しかし、思考力、表現力について課題が見えてきた。複数の資料から必要な情報を読み取った後、自分の考えを持ち、自分の言葉で表現すること、知識や理解を生活場面と結びつけて考えることが苦手な傾向がある。

(3) 質問紙調査から

ア 教科に関する意識

算数・理科の勉強が好きだと感じている児童は多いが、国語の勉強が好きと感じている児童は若干少ない。国語・社会・算数・理科の授業の内容がよく分かるという問いに対して肯

定的な回答をした児童が多い。しかし、自分の考えを話したり、調べたりすることに抵抗を感じている児童は、多い。

イ 生活面

読書が好きという児童が多い。学校の宿題をしているが、計画的に学習したり、復習したりしている子は少ない。また、休日にゲームをしている時間が1時間半を超えている子が多い。

3 学力向上の取組

(1) 分かる・できる授業づくり

ア 課題解決型の授業づくり

(ア) ねらいに迫る明確な課題設定と課題に沿ったまとめ

学習形態や発問などの工夫で意欲的な話し合いができるようにし、1時間の学習で「分かったこと・できるようになったこと」が、どの児童にも実感できる授業をめざす。

(イ) ノート指導の充実

ノートに課題、考え、まとめを書くことで、毎時間の自分の学びを確認することができ、学びの定着にもつながる。また、書く力の向上にもつながる。

イ 授業改善

ノートやワークシートから見る授業評価、参観者による授業評価などにより、児童にとって「分かる・できる学習」であったかを振り返り、授業改善に努める。児童による授業評価の「授業がよく分かる」が7割以上になることをめざす。

(2) 活用力の育成に向けた取組

ア 資料から読み取ったことをもとに自分の考えを持ち、話したり書いたりする力を育てる。

イ 考えたことを図や絵、式、言葉で書くとともに、自分の言葉で話したり説明したりする場面を取り入れ、表現力を高める。

ウ 既習の知識や技能を活用して課題解決ができるような学習展開を工夫する。

エ 既習の知識や考え方を掲示などし、活用できるようにする。

オ 学んだこと（知識や理解）を実生活と結びつけて考える場面を取り入れていく。

(3) 基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取組

ア 「聞く・話す」力の定着

低・中・高学年のめあてを決め、掲示し、ふり返られるようにする。

イ 朝学習の充実

漢字練習、計算練習、英語、読書を計画的に実施する。

ウ 夏休み明けの漢字テスト、計算テストの実施

夏休み中の学習の成果をみる。（繰り返しテストを行い全員が9割以上の達成をめざす）

エ 学力向上月間の設定

1 2月には、計算力アップ月間を、2月には、漢字力アップ月間を設定する。（家庭学習や補充学習等で習熟をめざす）

オ 個に応じた補充学習

放課後やサマースクールなど補充学習の時間を設定し、個別指導を行う。

(4) 家庭学習の習慣化

低学年30分 中学年45分 高学年60分の学習をめざす。（8割以上の定着をめざす）

学校から出された宿題＋自主学習（力を伸ばしたいこと、興味関心のあることなど個に応じた内容に取り組む）

4 その他の取組

(1) 学習発表会（6月、11月）

学習の成果を発表する機会とし、聞く・話す力の育成をめざす。

(2) 学校生活アンケート（7月、12月）

学習面、生活面、特活面で児童の意識調査を実施し、今後の指導に生かす。